

年 頭 の ご 挨拶

昭和産業株式会社

代表取締役社長執行役員 新妻 一彦

2021年の年頭にあたり、謹んで新年のご挨拶を申し上げます。

昨年を振り返りますと、我が国経済は、新型コロナウイルス感染症の影響により、経済・社会活動が制限されるなど、極めて厳しい状況が続きました。ウィズコロナに対応した新たな生活様式が定着し、経済・社会活動にも持ち直しの動きも見られるものの、主要都市を中心に感染が拡大しており、依然として先行きは不透明感の高い状況が続いております。

このような状況の中、当社グループは、創立90周年を迎える2025年度のありたい姿を「長期ビジョン」として掲げ、中期経営計画を3次にわたり展開しております。昨年4月よりセカンドステージとなる「中期経営計画20-22」をスタートさせ、基本コンセプト「SHOWA New Value Creation」を掲げ、「確立」のステージと位置づけ、「基盤事業の盤石化」と「成長事業の育成」に取り組んでおります。

「中期経営計画20-22」の基本戦略に掲げる「基盤事業の強化」では、プレミックスのシェア拡大を目的に、船橋工場内にプレミックス工場の建設を開始いたしました。新工場は、2022年6月操業開始を予定しており、最新の自動化設備や、IoTによる高い生産性と、生産リードタイムの短縮、多品種小ロット生産を実現するとともに、食品安全についてもより一層追及してまいります。

「事業領域の拡大」では、当社グループが取り扱う油種の品揃えの拡大を目的に、米油を取り扱うポーソー油脂株式会社を完全子会社化いたしました。両社の持つ経営資源や知見を相互に活用し、製造体制の統合や両社の商材と販路の活用等を行うことにより、両社における事業のシナジーを最大化させてまいります。さらに、市場が拡大している大豆たんぱくにつきましては、昨年秋に家庭用新商品を2品発売いたしました。業務用向けの原料供給だけでなく一般のお客様にも積極的にご提案することで、当社ブランドの確立を目指してまいります。海外におきましては、台湾大成集団のグループ会社である「國成麵粉股份有限公司」および「中一食品股份有限公司」が実施した第三者割当増資による株式を引き受け、台湾において「製粉事業」「飼料事業（鶏卵）」に参入いたしました。両社とも海外では当社グループ初となる持分法適用会社となっております。

「社会的課題解決への貢献」では、引き続きESG経営の視点から取り組みを強化しており、このセカンドステージでは目標のひとつに「CO2排出量26%削減への挑戦（グループ全体2030年度目標、対2013年度）」を掲げております。本年9月に鹿島工場コージェネレーション設備の燃料を「石炭」から「都市ガス」にシフトする燃料転換工事を予定しており、これにより石炭の使用を廃止いたします。本工事により、当社グループ全体のCO2の排出量を約20%削減します。

昨年、世界初の天ぷら粉である「昭和天ぷら粉」を発売してから60周年を迎えました。この60周年を契機として天ぷらの喫食機会を増やすことを目的に、外食、中食、内食の各市場に対し、今年も様々な施策に取り組んでまいります。

昨年よりスタートした「中期経営計画20-22」も本年4月より2年目に入ります。今後も、小麦、大豆、菜種、とうもろこし、米等の穀物を基盤に、昭和産業グループならではのユニークなビジネスモデルで多様化する「食」のニーズにお応えしてまいります。また、新型コロナウイルス感染症の影響もあり、変化が激しい時代の中で、新たな価値観や生活習慣が生まれています。当社グループはあらためて「共感」というキーワードに注目し、新たな価値創出にグループ全体のベクトルを合わせて取り組んでまいります。

皆様のご指導ご鞭撻をお願い申し上げますとともに、ますますのご繁栄とご健勝をお祈り申し上げます、新年のご挨拶とさせていただきます。